

おれはまた 萩原朔太郎に 負けてゐる

「青猫」「蝶を愛む」刊行
100年

*タイトルは小野十三郎の座談会「若き詩人のために」(『文芸往来』第3巻第6号)の言葉から引用

第51回

朔太郎
忌

第1部

対談「私の探偵と朔太郎」

出演：北村薫(作家)、松浦寿輝(詩人・作家・東京大学名誉教授・朔太郎研究会会長)

第2部

リーディングシアター「彼が青猫だった頃」

演出：生方保光(劇団ザ・マルク・シアター) 脚本：栗原飛宇馬

出演： 渡辺 大 窪塚俊介

柳沢三千代 萩原朔美(前橋文学館館長) 大島政昭

大月伸昭(劇団ザ・マルク・シアター) 加藤汐音(県立高崎商業高校)

チケット購入
申込方法

チケット 1,000円

(前橋文学館 観覧券1回分付)

販売・申込開始：4月14日(金)より

- ① 前橋文学館の窓口でチケット購入
 - ② 文学館ホームページ又は裏面QRコードより申込
 - ③ 前橋文学館へ電話(027-235-8011)申込
- ※②、③の場合は、チケット代は当日窓口でお支払いください。

お問い合わせ

朔太郎忌実行委員会(水と緑と詩のまち 前橋文学館内)

TEL：027-235-8011 FAX：027-235-8512

<https://www.maebashibungakukan.jp>

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目 12-10

主催 前橋市、朔太郎忌実行委員会 共催 (公財)前橋市まちづくり公社、萩原朔太郎研究会、前橋文学館友の会

後援 朝日新聞社前橋総局、NHK前橋放送局、FM GUNMA、共同通信社前橋支局、群馬テレビ株式会社、産経新聞前橋支局、J:COM 群馬、時事通信社前橋支局、上毛新聞社、高崎前橋経済新聞、東京新聞前橋支局、毎日新聞前橋支局、(公財)前橋観光コンベンション協会、まえばしCITYエフエム、前橋商工会議所、読売新聞前橋支局

協賛 群馬詩人クラブ、群馬ペンクラブ

2023/5月13日(土)

開演 13時30分(開場 12時30分)
会場 昌賢学園まえばしホール
(前橋市民文化会館) 小ホール(定員600名自由席)

みんなまだ 萩原朔太郎に 負けている

詩人・萩原朔太郎が亡くなったのは、1942(昭和17)年5月11日でした。
朔太郎の生誕の地前橋では、例年その命日に合わせ、その詩業を讃える
「朔太郎忌」を開催しています。

今回は、第1部で作家・北村薫氏をお招きし朔太郎の色褪せない魅力に
ついて松浦寿輝氏(萩原朔太郎研究会会長)と対談していただきます。

第2部では、今年刊行100年を迎えた詩集『青猫』『蝶を夢む』をモチーフに、
書き下ろしの新作リーディングシアターを上演。朔太郎が口語自由詩の
確立者として揺るぎない評価を得た詩集の核心に迫ります。

第1部 対談「私の探偵と朔太郎」

北村薫

きたむらかおる



撮影：新潮社写真部

1949年埼玉県生まれ。早稲田大学ではミステリクラブに
所属。89年、『覆面作家』として『空飛ぶ馬』でデビュー。
91年『夜の蟬』で日本推理作家協会賞を受賞。小説に『太宰
治の辞書』『盤上の敵』『ニッポン硬貨の謎』(本格ミステリ
大賞評論・研究部門受賞)『ひとがた流し』『鷲と雪』(直木
三十五賞受賞)『語り女たち』『1950年のバックスト』『いと
ま申して』三部作、『雪月花 謎解き私小説』などがある。読
書家として知られ、『ミステリは万華鏡』(読まざるにはいら
れない 北村薫のエッセイ)など評論やエッセイ、『名短篇、
ここにあり』(宮部みゆきさんとともに選)などのアンソロ
ジー、新潮新書『自分だけの一冊——北村薫のアンソロ
ジー教室』など創作や編集についての著書もある。2016
年日本ミステリー文学大賞受賞、2019年に作家生活三十
周年記念愛蔵本『本と幸せ』(自序朗読CDつき)を刊行。
最新刊は、『水 本』の小説。

北村薫

松浦寿輝

松浦寿輝

まつうらひさき



作家・詩人・批評家。東京大学名誉教授(フランス文学・
表象文化論)。日本芸術院会員。1954年東京都生まれ。
東京大学大学院仏語仏文学専攻修士課程修了。詩集に『ウ
サギのダンス』『冬の本』(高見順賞)『鳥の計画』『吃水都市』
(萩原朔太郎賞)『afterward』(鮎川信夫賞)『秘苑にて』
など。小説に『花腐し』(芥川賞)『半島』(読売文学賞)『そ
こでゆっくりと死んでいきたい気持ち』(その場所)『川の
光』『名誉と恍惚』(谷崎賞・ドゥマコ文学賞)『人外』(野
間文芸賞)『無月の譜』など。エッセー・評論に『折口信夫論』
(三島由紀夫賞)『エッフェル塔試論』(吉田秀和賞)『知
の庭園 一九世紀パリの空間装置』(芸術選奨文部大臣賞)
『明治の表象空間』(毎日芸術賞特別賞)『黄昏客思』『わ
たしが行ったさびしい町』など多数。

第2部 リーディングシアター「彼が青猫だった頃」

演出：生方保光(劇団ザ・マルク・シアター) 脚本：栗原飛宇馬

出演：渡辺 大 窪塚俊介

柳沢三千代 萩原朔美(前橋文学館館長) 大島政昭

大月伸昭(劇団ザ・マルク・シアター) 加藤汐音(県立高崎商業高校)



渡辺 大



窪塚俊介



柳沢三千代



萩原朔美

多くの人々を魅了してきた萩原朔太郎。『風立ちぬ』で知られる作家・堀辰雄も、
若き日に朔太郎の第2詩集『青猫』に耽溺し、強い影響を受けたと言います。その
堀に朔太郎の詩を教えたのは、親友の神西清でした。堀の朔太郎へのあまりの
傾倒ぶりにスノビズムを感じとった神西は、堀の前で朔太郎をこきおろすよう
になり、ついには喧嘩になってしまいます。が、そんなエピソードまででありながら、
堀が朔太郎からどんな影響を受けたのか、その内実は明らかになっていません。
本作はその謎に焦点を当て、堀辰雄と神西清らをモデルにした登場人物たちの
ドラマを通じて、虚実を織り交ぜて『青猫』の魅力を浮かび上がらせてます。

チケット
申し込み方法

<朔太郎忌申込サイト>
右の QR コードを読み取り、必要事項に記入のうえ
お申し込みください



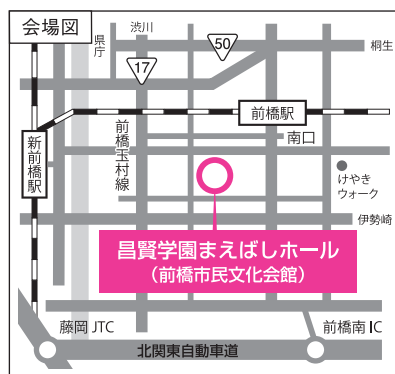
- ・4月14日(金)午前9時より受付開始。
- ・座席指定はできません。
- ・チケットの引き換えは、当日12時から昌賢学園ホール 2階のチケット
売り場(小ホール階段上)で1,000円(現金のみ)と引き換えます。

- ・チケット半券は、2023年5月20日(土)まで前橋文学館観覧券と
してご利用になれます。(当日午前中に前橋文学館を観覧されたい
場合は、あらかじめお電話にてお知らせください)
- ・申込後のキャンセルは前橋文学館までお電話ください。
- ・イベント中止の場合は前橋文学館にて払い戻しをいたします。

前橋文学館
開催中の企画展

2階企画展示室(5月21日まで)
世界が魔女の森になるまで
第30回萩原朔太郎賞受賞者 川口晴美展

3階オープンギャラリー(6月4日まで)
“詩”をいきるひとたちへ
萩原朔太郎賞歴代受賞作展



○会場アクセス

昌賢学園まえばしホール(前橋市民文化会館)
〒371-0805 群馬県前橋市南町三丁目62-1

詳細は昌賢学園まえばしホール HP をご確認ください。
<https://www.maebashi-cc.or.jp/maebashishibun/access>

アクセス(交通案内)

電 車 JR両毛線・前橋駅南口から徒歩8分

自動車 関越自動車道・前橋ICから車で20分

※駐車場は詰込みとなります。お早めにお越しいただくか、公共交通
機関を利用してください。